

課題名

「開腹胃切除術後患者における自己調節鎮痛（PCA）と PCA にアセトアミノフェン定期投与を追加したマルチモーダル鎮痛の効果比較」について

○研究の目的

術前・術中・術後の患者管理において、全身状態が落ち着いた時点で早期から座位や立位・歩行を行うことを妨げる要因の一つに、外科的手術による術後疼痛が挙げられます。現在、術後疼痛に対しフェンタニル、ロピバカインによる自己調節鎮痛（Patient Controlled Epidural Analgesia :PCA）を使用していますがそれでもなお十分な鎮痛が得られていません。近年マルチモーダル鎮痛（作用機序の異なる鎮痛法の組み合わせ）で各薬剤の必要量を減らし、患者のQOLを高める術後鎮痛が推奨されています。そこでPCAに、アセトアミノフェン注射液の反復投与を追加した場合の鎮痛効果について検討します。

○研究の方法

平成 25 年 1 月 1 日から平成 30 年 12 月 31 日までに、広島大学病院で胃切除術を施行された患者を対象とします。

本研究は全て診療録（カルテ）情報を調査します。

調査する内容は術後疼痛にアセトアミノフェン注射液の投与群と非投与群での鎮痛効果を後方視的に比較します。あわせて硬膜外カテーテル抜去までの日数、鎮痛薬注入回数および鎮痛薬リクエスト回数を評価します。（個人が特定出来る情報は転記しません）

（研究期間 承認後～平成 31 年 12 月 31 日）

○個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心下さい。

不明な点がございましたら下記のところまでお問い合わせ下さい。

* 研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出頂いても今後の診療等に不利益が生ずることは有りません。

.....
お問い合わせ先

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 Tel:082-257-5572

広島大学病院薬剤部

薬剤師 松尾 裕彰(研究責任者) 土井 舞子(担当者)